

平成19年5月14日

各 位

会 社 名 アライドテレシスホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長 大嶋 章 禎
(コード番号: 6835・東証第2部)
問合せ先責任者 IR部部長 原 洋 一
(TEL. 03-5437-6007)
(URL <http://ir.at-global.com/>)

業績予想（連結）の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年2月23日の「平成18年12月期決算短信（連結）」にて公表した平成19年12月期連結業績予想を、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成19年12月期 中間連結業績予想数値の修正（平成19年1月1日～平成19年6月30日）

(単位：百万円)

(中 間 期)	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	29,500	1,200	800
今 回 修 正 予 想 (B)	26,000	170	△330
増 減 額 (B-A)	△3,500	△1,030	△1,130
増 減 率 (%)	△11.9%	△85.8%	—
(ご参考) 前期実績 (平成18年6月期)	27,508	△1,002	△2,218

尚、通期（平成19年1月1日～平成19年12月31日）の業績予想につきましては、現時点での変更はございません。

(通 期)	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想	60,000	2,700	1,700

2. 業績予想修正の理由

当第1四半期の連結業績につきましては、期待のIPトリプルプレイ・ソリューションが、欧州において順調に立ち上がってきており、複数の大手通信事業者との契約により、今年度後半にも継続して売上が見込める状況となり、売上高は前年度に比較して欧州で9.8%増加、法人向けネットワーク機器事業を中心とする日本においても当初計画比105.2%と伸長しましたが、昨年より生産委託しているEMS工場の生産体制の影響などにより、欧米における売上高が当初計画比79.7%と伸び悩んだことから、全体をカバーするには至りませんでした。この結果、売上高は13,194百万円（前年同期比92.5%）、営業損失は126百万円改善しほぼ無くなり、経常利益は281百万円改善し57百万円の黒字となり、当期純損失は260百万円改善し85百万円となりました。

第2四半期につきましては生産委託しているEMS工場の生産体制の影響も前半多少残ることから、売上高についても当初計画を下げ、中間期の予想売上高を11.9%減額いたします。また、コストについては第2四半期で年後半の業績回復を目指し、業務の合理化を図るべく欧米を中心にリストラクチャリングを実施いたしますので、新たに特別損失に5億円を見込んでおり、中間期までに回復させることは困難との判断から、上記のような修正をいたします。

通期におきましては、欧州におけるIPトリプルプレイ・ソリューションの契約数は着実に伸びていること、先般、当社の欧州子会社によるドイツテレコムとの契約により7月以降の受注やイタリア政府関連企業Consip S.p.A.の入札を落札し、さらにIBM社と国際調達ベンダー契約に加え、IPTV (Internet Protocol Television) の

共同開発契約による受注など、年後半にかけて大型案件の開拓が見込まれること、また日本を中心とする法人向けネットワーク機器事業では、ギガレイヤー3製品の順調な伸びに加え、第3四半期以降に市場に投入する予定製品もあり、年後半には収益に貢献し始める見込みであります。コストについては第2四半期で実施するリストラクチャリングによる効果が、年後半の販売費及び一般管理費に好影響がでると予想しており、通期では平成19年2月23日の「平成18年12月期決算短信（連結）」にて公表した平成19年12月期の通期の連結業績予想は達成可能と考えております。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上